

「御国が来ますように！！！」

～ あなたの真心は？ ～

マタイ 6:9～15、6:1～8

■ 御国はあなたに来る

私たちは御国が来ますようにと祈りますが、大切なのは、私たちの心に御国が来ているのかどうか、ということです。神様は、国家ではなく、一人を変えようとしています。私たちの心に御国が来るとは、どういうことなのでしょう。

あなたに「御国が来た」時、あなたには他とは違うインパクトが与えられます。私たちは神の国の大使であり、イエス様の香りを放つ義務があります。

■ 偽善者である私たち (マタイ 6:1～7)

私たちは、人にどう思われているか？人の評価が気になります。そして評価を求めようとしてしまいます。

(マタイ 6:5)『また、祈るときには、偽善者たちのようであってははいけません。彼らは、人に見られたくて会堂や通りの四つ角に立って祈るのが好きだからです。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。』

イエス様はこのような私たちの心をご存じです。だからこの地上で、人の評価ではなく、神様ならどうするか？を選べるように訓練をさせて下さっています。神の評価を選ぼうとするとき、それは大多数の人がある物事を選ぼうとする時、そうではない、神様の方法を選ぶことです。それはたった一人で周りの人が選ぶものとは違うものを選ばなければならないこともあるかもしれません。

■ 主の祈り (マタイ 6:9～15)

主権は神様にあること。そしてそれに対して自分はどの行動するのか？主の祈りは大きくわけるとこの大きな2つのテーマに分かれます。イエス様が話すことは、今まで聞いた話とは違って、非常にインパクトがありました。この地のルールと神のルールは違うからです。私たちは、民主主義という方法を選びました。数が多い方が選ばれます。もう一つの方法は王権国家です。多くの国家がこのどちらかを選んでいきます。このような方法の中でこの世界は統治されています。では、教会はどのようであったらよいのでしょうか。多数決で決まるような状況の中、私たちは、神のものは神に返すように言われています。あなたの国に御国が来ているのかどうか、考えるときです。

私たちは、この世で大使館に住んでいるようなものです。教会は大使館であり、神の国です。だから、教会に神の御国があるかどうか確認しなければなりません。あなたは、教会から各家に、各場所に大使として遣わされています。あなたはその自覚がありますか。聖書に書かれている隣人を自分のように愛しなさいという義務、キリストの大使として立つのだという義務、イエス様の香りを

放つという義務を果たすことができているのでしょうか？御国があなたの中に今行われているのでしょうか。あなたは本当に愛しているのでしょうか。人の罪を自分の罪のように祈っているのでしょうか。

聖書は、あなたの隣人に愛を伝えるように言っています。御国が来るといことは、私たちの心の中にイエス様がいるということです。物事の判断は、民主主義ではなく、イエス様ならどうするかを考えることが大切です。

■ 御国とは赦すこと

御国とは何でしょうか。もし、あなたが罪を赦すなら、神もあなたを赦してくださいませ。御国とは赦すことです。そして、愛することと赦すことは、同じです。

あなたはまだ、自分の心の王座を神に譲らず王として君臨するのですか。人を裁くのですか。比較を続けるのですか。

■ イエス様をお迎えしよう

イエス様に祈りましょう。もし、あなたが赦すなら、あなたも赦されます。御心が天でなされるように地でも行われますように。目を覚ましましょう。あなたは、神様の子どもとして立てられています。もし、あなたが信じるのなら神の栄光を見る、と言われていきます。自分を中心において人を裁き続けるのをやめましょう。そして、自分を裁き続けるのもやめましょう。あなたは、あなたのものではありません。我の中にキリストが生きるなりと聖書は言っています。

最後に

ダビデは兄弟の数にも入れられていませんでした。預言者もこの子が？と思いました。しかし、神はダビデを選びました。神様が選ぶのは心です。

私たちは人を裁き、小さなことで絶望してしまいます。しかし、一度しかない人生を神様が作り変えてくださり、助けてくださいました。それなら、神様のために生きませんか。私たちが自分の罪を悔い改めるとき、これほどの恵みはないと聖書は言います。ごめんなさいは美しいことです。

御国が来ますように、それは、ごめんなさいと言える信仰の土台です。主よ目を覚まさせてください。主が共におられることを信じ、祈りましょう。

(要約者:山本 洋子)

(2022年7月10日)